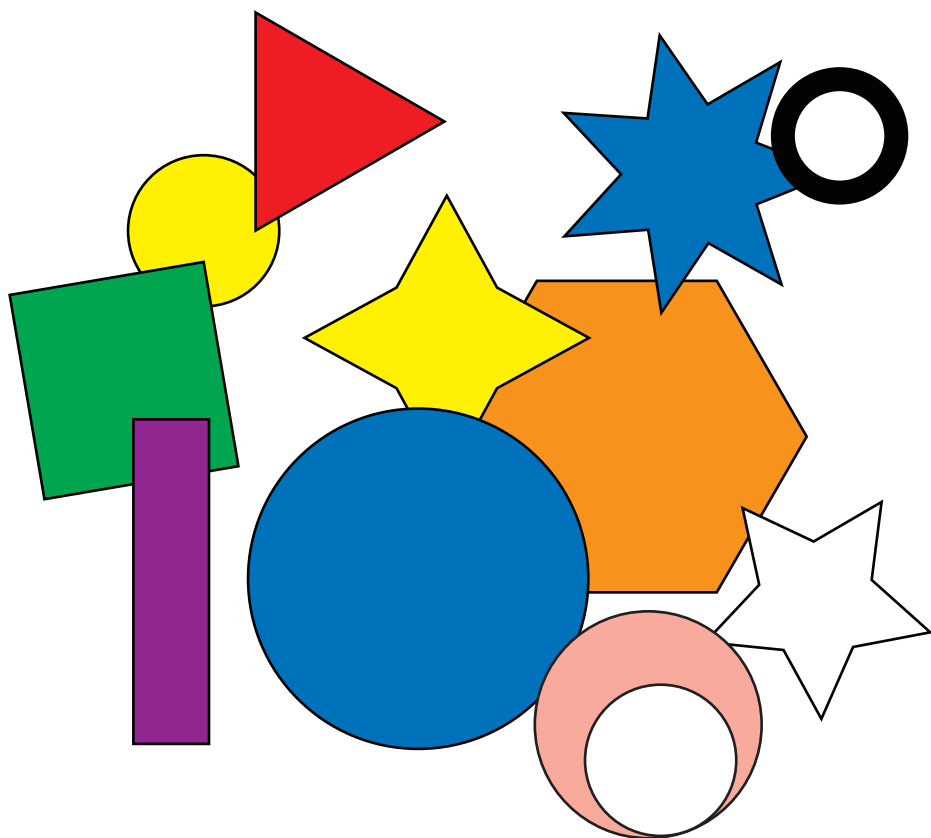

HIV 感染症・エイズ

HIV 検査普及週間 2017



AIDS IS NOT OVER

—エイズはまだ終わっていない—

日本のHIV流行の状況

2016年の新規HIV感染者・エイズ患者報告数は1,440件で、過去9位となりました。2015年と比べて、新規HIV感染者報告数はやや減少、新規エイズ患者報告数は増加しました。感染経路としては、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多くなっています。(平成29年3月29日エイズ動向委員会発表の速報値)

★新規HIV感染者:1,003件(過去9位)

★新規エイズ患者:437件(過去6位)

★累計報告数:27,435件

エイズを発症して、初めてHIV感染を知る人が3割

日本では、新規報告者数に占めるエイズ患者報告数の割合は、およそ3割のまま推移しています。

全国の保健所では、無料・匿名での相談やHIV検査を実施しているので、積極的にご利用ください。

世界の状況

2015年末現在、世界中で3670万人の人々がHIVと共に暮らしています。HIVの流行が始まってから3500万人がエイズによって亡くなったとされています。

2015年1年間に、HIVに感染した人は210万人で、15歳未満の子どもが15万人含まれています。エイズで亡くなった人は110万人でした。

世界では1日に約1,500人の若者(15~24歳)がHIVに感染しています。

★HIV陽性者:3670万人

★新規HIV感染者:210万人

★エイズによる死亡者:110万人

HIV感染症・エイズは、まだ終わっていません。知っていても、分かっても、具体的な行動が伴わなければ、効果的なHIV感染予防にはつながらないのです。

だからこそ、それぞれの立場から「予防」「検査」「治療」「支援」「理解」という具体的な行動をとることが求められる。そして、そのためには、一人ひとりがHIV感染症・エイズの正しい知識を得て、5つの行動を実施していくことが重要なのです。

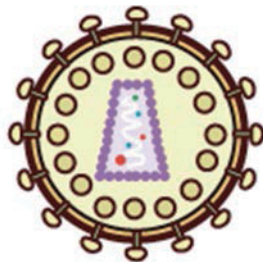
知っていますか？ エイズとHIVは違います

HIVとは

HIVとは、ヒト免疫不全ウイルスのことで、免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球（CD4細胞）という白血球などに感染し、からだを病気から守っている免疫力を低下させていきます。

HIVに感染して2～4週間後に発熱、リンパ節の腫れ、頭痛など、風邪に似た症状が出る場合がありますが、ほとんどの人には症状がありません。

感染後6～8週間で血液中にHIVの抗体ができますが、自覚症状のないまま数年間の潜伏期間（無症候期間）に入ります。



症状が出なくても、HIVはHIV感染者の血液・精液などに含まれていますから、これらが直接からだの中に入れば感染する可能性があります。

エイズ(AIDS)とは

エイズ（後天性免疫不全症候群）は、HIVに感染することによっておこる病気です。HIVに感染し免疫力が低下すると、本来なら自分の力で抑えることのできる病気を発症するようになってしまいます。抵抗力が落ちることで発症する疾患のうち、代表的な23の疾患を発症するとエイズ発症と診断されます。

A quired	➡	後天性
I mmuno	➡	免疫
D eficiency	➡	不全
S yndrome	➡	症候群

生まれた後にかかる
免疫の働きが
低下することにより生じる
いろいろな症状の集まり

HIVの感染経路

HIVの感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。HIVは主に3つの経路で感染します。

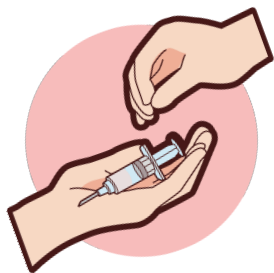


性行為による感染

性行為による感染は最も多い感染経路です。HIVは主に血液や精液、膣分泌液に多く含まれています。HIVは感染者の血液・精液・膣分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通過してうつります。性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV感染症・エイズ予防にとって有効な手段です。

血液を介しての感染

HIVが存在する血液の輸血や、覚せい剤などの“回し打ち”による注射器具の共用などによって感染します。日本では、現在、献血された血液は厳重な検査により最高水準の安全が確保されており、感染の可能性はきわめて低くなっています。



母親から赤ちゃんへの母子感染

母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時に赤ちゃんに感染することがあります。母乳による感染の例もあります。日本では、お母さんがHIV感染症の治療薬を飲むことや母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を1パーセント以下に抑えることができます。



HIV感染を予防するには

HIV感染の最も多い感染経路は性行為です。
HIV感染を防ぐためには、必ずコンドームを使用すること、
また、パートナーに使用してもらうことが重要です。

お酒を飲み過ぎたり、薬物を使用したりしているときは、コンドームを最初から最後まで、正しく着けることが難しく、せっかくの予防も中途半端になってしまうので避けてください。



HIV感染症の治療



HIV感染症の治療は作用の異なる3剤以上の抗HIV薬を併用して服薬します。

いまのところ、からだの中のHIVを完全に取り除く治療法はありません。しかし、抗HIV療法の進歩によって、エイズを発症する前にHIV感染を知り、適切な治療を受ければ、感染前と変わらない日常生活を送ることができるようになりました。最近では1日1回1錠の服用ですむ薬も開発されています。

早期に治療を始めることにより、他の人への感染を防ぐこともできます。

また、HIV感染症の治療には社会保障制度があり、経済的負担が軽減されます。

詳しく
知るには

- エイズ予防情報ネット <http://api-net.jfap.or.jp/>
- HIV 検査相談マップ <http://www.hivkensa.com/>
- 国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター
<http://www.acc.go.jp/accmenu.htm>
- HIV マップ <http://www.hiv-map.net/>

HIV検査

HIV感染に特徴的な症状はありません。HIVに感染したかどうかを調べるためにはHIV検査を受けるしかありません。

HIV検査は、エイズの原因ウイルスであるHIVに感染しているかどうかを調べる検査です。少量の血液（約5cc）を採って、血液の中にHIVに対する抗体があるかどうかを調べる「抗体検査」が一般的です。



HIV検査はいつ受ける？

HIV感染初期には、検査では分からない時期があります。感染の有無をはっきり確認したいときは、感染の可能性のある機会から3ヵ月以上たってから検査を受けてください。

感染が非常に心配な場合は、感染の可能性のある機会から3ヵ月以内であっても、検査・相談を受けることで、ひとつの目安を得ることができます。ただし、もし陰性と出てもその結果を最終的に確認するためには、感染の可能性のある機会から3ヵ月以上たってからの再受検が必要となります。

HIV検査はどこで受けられる？

HIV検査は全国のほとんどの保健所で受けられます。しかも無料・匿名です。自分の住んでいる地域以外の保健所でも受けられます。HIV感染の心配が少しでもあれば、検査を受けてください。

医療機関でも希望すれば受けることができます。また、自宅で受けられる、郵送検査というシステムもあります。いずれも有料（5,000円～10,000円くらい）です。

保健所 = 無料 + 匿名

HIV感染は献血では分かりません。検査目的の献血は、絶対にやめましょう。

保健所の検査

保健所などの無料・匿名検査には、「通常検査」と「即日検査」があります。

通常検査では、結果は1～2週間後に分かります。

即日検査は、陰性の場合、その日のうちに結果が知られます。保健所によって検査日時は異なり、予約が必要などもあります。事前に確認してから受けるようにしてください。



受けようと思ったときに、受けどきです

不安に思ったら、いつでも検査を受けてみてください。HIV感染は検査を受けないと見つけることはできません。また、検査の前には必ず説明がありますし、その場で相談もできます。HIV感染症・エイズの正しい知識や感染の早期発見、予防についての情報を知ることができます。

郵送検査が増えています

郵送検査は、すきなときに、すきな場所で受けられるメリットもありますが、対面での検査ではないため、説明や相談、検査後のフォローアップなどがじゅうぶんではないというデメリットもあります。

郵送検査は「感染している可能性」の有無を調べる、予備的な検査です。検査の結果、さらなる検査が必要（陽性あるいは判定保留）とされた場合は、あらためて医療機関等で検査を受けましょう。


検査や疾病のことをじゅうぶんに理解し、自分に合った方法を選んでください。

調べようーエイズ予防情報ネット

<http://api-net.jfap.or.jp/>



保健所等では無料・匿名でHIV検査が受けられます。

 HIV検査情報サーチ

住所、検査の種類、実施日時などからHIV検査を行っている施設を探せます。

理解と支援の象徴 レッドリボンとは

“レッドリボン（赤いリボン）”は、古くからヨーロッパに伝承される風習のひとつで、もともと病気や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の気持ちを表すものでした。

この“レッドリボン”がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1990年ごろのことです。このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティストたちにも HIV 感染がひろがり、エイズで死亡する人々が増えていきました。

そうした仲間たちに対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。

この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展し、UNAIDS（国連合同エイズ計画）のシンボルマークにも採用されています。

レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、HIV と共に生きる人々を差別しないというメッセージです。

このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズのことをみんなで考えましょう。



エイズ予防財団電話相談



0120-177-812 携帯電話からは 03-5259-1815

祝日を除く月～金、午前10時～午後1時、午後2時～5時

公益財団法人エイズ予防財団では、HIV 感染症・エイズに関する正しい知識の普及啓発、NGO・NPO への助成金交付などを行っています。当財団の事業活動にご理解とご賛同をいただき、ぜひご支援をお寄せくださるようお願い申し上げます。